

♪  
お馬のかあさん  
やさしいかあさん  
子馬をみながら  
ぽっくりぽっくり  
あるく

# おうまのおやこ

子育ても  
あせらず待ちましょ  
ポックリ、ポックリと



22年 2月 NO. 183

(厚生労働省・高松市委託事業)

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2  
高松保育園内地域子育て支援センター  
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857  
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

| ～どなたでも～ |   | 2月の主な活動                      |  | ～お気軽にどうぞ～ |  |
|---------|---|------------------------------|--|-----------|--|
| 2月 3日   | 水 | 節分だよ！豆まきにおいで。<br>10:00～11:00 | 節分のことを知り、豆まきをして<br>鬼を退治しましょう。                        |           |  |
| 2月 13日  | 土 | 入園前体験保育<br>9:00～13:00        | 同じ年齢のクラスに入って、遊んだり<br>給食を食べたりします。(予約要)                |           |  |
| 2月 19日  | 金 | おはなしの会<br>10:30～11:30        | 節分や鬼の話もあります。<br>どなたでもどうぞ。                            |           |  |
| 2月 19日  | 金 | 香川みすゞさんの会<br>14:00～16:00     | 「多重債務で苦しむ人たちの実態と対策」について<br>鍋谷さんから(高松あすなろ事務局長)お聞きします。 |           |  |
| 2月 20日  | 土 | 木工教室<br>14:00～16:00          | 木を使って、生活に役立つ物を<br>作ってみましょう。                          |           |  |
| 2月 26日  | 金 | 健康・育児相談<br>11:00～12:00       | 小児科園医師にゆっくり<br>相談できます。(予約要)                          |           |  |
| 2月 27日  | 土 | 体験保育<br>10:00～12:00          | 出産予定の方も子育て体験に<br>おいでください。                            |           |  |
| 2月 27日  | 土 | 実用筆書き講座<br>14:00～16:00       | 日ごろ、筆を持たない方もどうぞ。<br>筆に慣れることから始めましょう。                 |           |  |

|  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎火曜日 園庭開放(13時～16時)</li> <li>・上記の活動日以外は13時～18時まで地域開放しますので、親子でご来園下さい。<br/>(但し、月・日曜・祭日は休み)</li> </ul> | <p><b>育児相談(月～土) 9:00～18:00</b><br/>しつけや子育てについての悩み、<br/>保育園生活、入園・見学について<br/>の相談もどうぞ。</p> |
|--|---|

金子みすゞ童謡全集4  
空のかあさま・下より

「お番」の晩は夜なかでも  
からころ足駄の音がする。  
あしだ

更けてお家へかえっても、  
なにかうれしい、ねられない。

ただ、明るくにぎやかで、  
友だちやみんなよって、  
なにかしないじゃいられない。

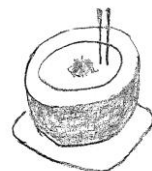
大人はしっとりお話を、  
子供は騒いじゃ叱られる。

とても大きなお火鉢で、  
明るい、明るい、あたたかい。

とても大きな蠟燭と、  
ろうそく、  
くらしい夜みちをお寺へつけば、

雪はなくても暗のころ、  
「お番」の晩は雪のころ、  
やみ

ほうおんこう  
報恩講



このごろ、当園でも子どもたちはヒノキの積み木5ケース（約1000ピース）やカプラ注※（800ピース）で、イスにあがって積み上げ、高い塔を作ったり、長いミノにしたり、積み木でのダイナミックな遊びを楽しんでいます。

今月は、積み木遊びについてご紹介しましょう。

## 積み木で広がる遊びの世界 ～個性豊かな積み木をみんなで楽しむ～



積み木は、時代を超えて遊び継がれているがん具の1つです。その効能も、いろいろなところで語られています。私なりにまとめると以下のように思います。

### ① 器用さをはぐくむ

ロックがん具のように、しっかりとパーツとパーツがくっつくわけではないので、積み木を積むときには指の動かし方と力加減に繊細さが求められます。

また、難しい所に積み木を積むことができたときには大きな達成感も味わうことができます。

### ② 科学的法則への気づき

積み木遊びをとおして、子どもたちはいろいろな科学的法則に気づきます。科学的というと大げさですが「物は落ちる」「細い積み木より太い積み木の方が安定して立つ」「少しくらい斜めの場所なら積み木がのせられるが、急だとすべり落ちる」など立派な物理法則です。それに遊びながら気づくことができます。また、あるパーツを2個重ねるとそのパーツと高さが一緒になるなど、その積み木固有の特徴を考えながら遊ぶので積み木遊びは大いなる知恵遊びともいえます。

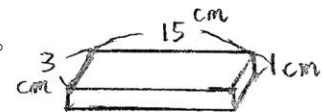
### ③ 想像力をはぐくむ

積み木の形は直方体が基本で、三角柱や円柱の形ものが少しまじっているというのが普通だと思います。ブロックなら、タイヤの部品があったり、飛行機の翼のような部品があったりしますが、積み木の場合、形は幾何学の基本的な形状ですし、色も無

**注※カプラ**とは、オランダからフランスへ移り住んだトム・ブリュゲン氏が城を修復するため模型を作り、工夫する中で、同じ大きさの板を使うことを考えつきました。

15年間の試行錯誤の中で大きさが1:3:15の比率になっている今の

カプラ（木の板）が完成しました。



カプラは、右脳と左脳を同時に使う遊びです。形をイメージする想像力や新たなものを作り出す右脳を使い、集中力も必要とする左脳も使って、変化する世界に適応していく器用さと柔軟さを養うことにつながります。

垢であったり、ついていたとしても何かの模様になっているわけではありません。

細長い積み木を並べると、「道」になります。その上の直方体の積み木は「自動車」です。ぱっと見ただけではただの積み木ですが、子どもたちの想像力が、それを自動車にしているのです。このように、想像するということは、子どもの知的発達に効果があります。一般の家庭で積み木は、乳児向けのがん具として扱われていることが多いようです。赤ちゃんの時に積み木が用意されるのですが、2～3歳で他のおもちゃに興味を持ち始めると、しまわれてしまうことが多いようです。しかし、積み木で遊ぶためには、指先の繊細な動きや、ある程度の知恵が必要となるので、本当に積み木の楽しさを感じられるのは4歳ぐらいからではないでしょうか。

### 同じ形の板状の積み木で遊ぶ



同じ形（1×3×15センチメートルの細長い板）の積み木を、たくさん使って遊びます。[こどもの城]で実践した時には、約3千ピース用意しました。決まった遊び方はありませんが、高く積む、床に並べて模様を作る、家や船などいろいろな物の形にする、幾何学的なおもしろい形を作る、ドミノ倒しなど、子どもたちはいろいろな遊び方で楽しんでいました。

なかでも人気があったのは、「高く積む」遊びです。1人の子が高く積み始めると、別の子も積み始める、競争しているわけではないでしょうが、互いに相手を意識しながら高くしていきます。高くなると、当然バランスが悪くなるので崩れやすくなります。案の定、崩してしまう子もいるのですが、ほかの子の積み方を見て「こうすればいいのか」とまねして再び積み始めます。最後には会場に何本もの柱がによきによき立っていました。

さらに高くしようと、お父さんに肩車してもらって積んでいる姿も多く見られました。肩車されたままだと、床のカプラを取ることはできません。お父さんも肩車したままではしゃがむのが大変です。そこでお母さんの出番です。床のカプラを取って、お父さんの方の上にいる子どもに手渡します。家族で協力して、会場の天井（高さ約2.4メートル）まで積み上げることに成功していました。

その場に集まった子どもたちみんなで楽しむ遊びも行いました。床に直接1.2メートルほどの円を描き、6センチメートルくらいのすきまをあけてカプラを並べていきます。2段目からは、下の段に並んでいるカプラとカプラに橋を架けるように置きます。積み方の説明をした後、「じゃあ、ここにある3千枚のカプラ全部を使って作るよ」と話すと、「えーっ、全部？」と大歓声があがります。

「この辺まだ低いよ」「こっちにもカプラちょうだい」「あっ、崩れそう」。ただカプラを置いていくだけなのですが、会場は熱気に包まれます。20分程度で全部のカプラを積み終わると、直径1.2メートル、高さ約1.5メートルの塔ができ上がり、会

場から拍手がわきました。それだけでも満足ですが、まだ遊びは続きます。

塔の下の方にあるピースを指差して「この1枚を抜き取るとどうなると思う？」と質問をすると、「ぜったい崩れるよ」と子どもたちは答えます。スタッフがそっと1枚抜き取ります。カプラの塔は崩れません。子どもたちから「すごーい」という声があがります。さらに数枚抜き取っても崩れないことを確認し、「今から、ここと反対側に穴をあけて、出入り口を作ろう」と新たな遊びを始めました。

1人1枚抜き取ったら、交代です。崩れたらどうしようという想いも手伝って会場中にドキドキ感がただよいます。やがて、ハイハイすれば出入りできる穴が2か所完成しました。全員が順番にその穴から塔の中に入り、立ち上がってみました。積み木の家に入ったような感じがして、みんな満面の笑みを浮かべていました。

十分に堪能したあと、いよいよ最後の遊びです。先ほどの要領で1枚ずつ抜き取っていった、「誰のときに崩れるか」で遊びます。今度は本当に崩れるまでやるので、先ほどにも増してドキドキします。1枚、また1枚と抜いていきます。少しグラグラしてきました。やがて「ガシャーン！」という大音響をともにカプラが崩れ、「わっー」という叫び声があがり、拍手が起きました。



積み木で作った塔。出入り口を作り、なかに入ってみます。

## 大人数で遊ぶたのしさもあります



2つの実践から感じたのですが、たくさんの積木を大人数で遊ぶからこそ現れる効果もあるようです。

たくさんのパーツがあると、みんなが同時に遊ぶことができます。当たり前のことですが、この同時にとということが重要です。同時に同じ物で遊んでいるということは、ほかの子がやっていることを見ることができます。「〇〇くんはすごい積み方をしてる、僕もやってみよう」とまねしたり、「どっちが〇〇できるか」と競争したり、互いに教え合ったり、協同作業で作ったりと、子ども同士のかかわりが自然と出てきます。全員で楽しむ遊びの大会のようなこともでき、ダイナミックに遊ぶことができます。

日常の保育では、自由遊びの道具となりがちな「がん具」ですが、これらの積み木遊びのように、「がん具」が主役のプログラムをみんなで楽しんでみるのも良いのではないのでしょうか。